

MV-22 オスプレイ 事故率の資料を 米海軍が削除

2016年1月12日、「MV-22 オスプレイ、アフガン配備機 90 時間に 1 件の割合で事故発生」と、沖縄県の地元紙が報道しました。

そして、その情報源である米海軍安全センターが作成したデータを米軍が削除していたことが、私たちのオスプレイ反対署名署名提出・要請行動（2016/2/12）の中でわかりました。

防衛省の担当者は、「海兵隊の部内資料は数値に誤りがあったと聞いている。いずれ正しいものが載る予定だ」と述べました。ひどい事故率なので日米両政府は、数字を改ざんするのでしょうか。

2010～2012 米会計年度の
アフغانستانにおける海兵
隊航空機事故（事故はクラス A-D）

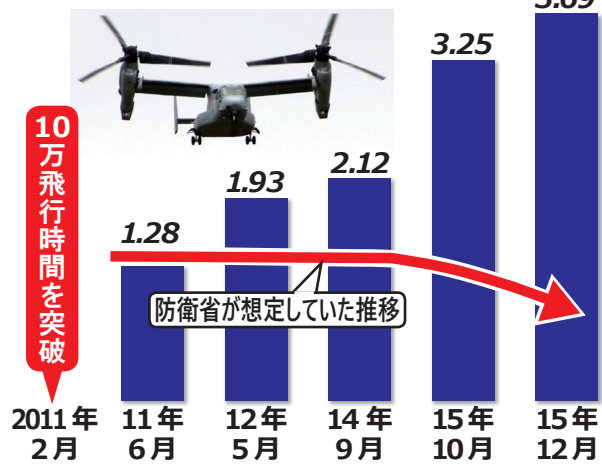
機種	事故 件数	飛行 時間	事故 発生率	1件当たり 飛行時間
MV22B	8	723.60	1105.56	90.45
CH53D	6	5,630.50	106.56	938.41
CH53E	8	19,480.70	41.07	2,435.08
F18C	2	7,675.10	26.06	3,837.55
AV8B	2	10,891.40	18.36	5,445.70
AH1W	3	29,121.10	10.30	9,707.03
KC130J	2	19,809.30	10.10	9,904.65
EA6B	1	13,327.80	7.50	13,327.80
UH1Y	1	16,017.60	6.24	16,017.60
UC35D	0	25.60	0	0
UH1N	0	219.40	0	0
FA18D	0	723.20	0	0

飛べば飛ぶほど事故率が上がる

この間行われた政府交渉で、政府側は、「運用時間が伸びれば（CV-22 は飛行時間が 10 万時間に達していない）事故率は下がる」と説明をしてきました。しかし、実態は事故率が上がるばかりで、政府側の説明は「事故率は参考数値である」に変わりました。

また、横田基地に配備予定の CV-22 に至っては、運用時間がなかなか 10 万時間に達しません。事故率が高いために、運用時間が伸びないのではないかと疑わざるを得ません。

MV-22 オスプレイのクラス A 事故率
(件 / 10 万飛行時間当たり)



【琉球新報 2016.1.6 を参考にして作成】

CV-22 オスプレイの 横田基地配備**反対!** MV-22 オスプレイは 普天間基地から**撤去!**

○署名や反対運動にご協力ください。

首都東京に広大な米軍・横田基地があります。戦後 70 年の間、ベトナム戦争やイラク戦争など、海外の戦争に直接関わってきました。

そして今、CV-22 オスプレイと特殊作戦部隊の配備が 2017 年末に始まる予定で計画されています。横田基地周辺には、さらなる危険と被害が増大されようとしています。



2014年10月1日ペルシャ湾の事故。
MV-22 が揚陸艦から離陸後、出力を失い海へ。乗員 2 名が海に飛び込み、1 名死亡。

◆オスプレイ横田配備反対連絡会：横田基地問題を考える会、横田基地の撤去を求める西多摩の会、横田基地もいらぬ市民交流会実行委員会、横田・基地被害をなくす会、第 9 次横田基地公害訴訟原告団 (TEL&FAX042-542-5625)、第 2 次新横田基地公害訴訟原告団 (TEL&FAX 042-552-4451)

危険！オスプレイの事故で41名死亡

年	月日	主な事故とその内容 (2000年の事故以外は MV-22)	死者数
1992	7/20	着陸直前に右エンジンから出火～川に転落	7人
2000	4/9	着陸のため降下中コントロールを失って墜落	19人
2000	12/11	機器の不具合により操縦不能～墜落 (開発段階)	4人
2010	4/9	アフガニスタンで CV-22 が着陸失敗～横転	4人
2011	7/7	アフガニスタンで離陸中に後方ドアが開き～兵士が落下	1人
2012	4/11	モロッコで離陸直後に旋回中～追い風を受けて墜落	2人
2014	5/19	訓練中に後方ドアが開き～兵士が落下	1人
2014	10/1	ペルシャ湾で強襲揚陸艦から離陸直後出力を失う	1人
2015	5/17	ハワイで離着陸訓練中に墜落	2人

オスプレイ配備反対署名 18,000 筆を提出～政府側は不誠実な対応

2016年2月12日、オスプレイの横田基地への配備断念と飛来中止を求めて、署名18,000筆を持参して、政府（外務省と防衛省）要請を行いました。当日は、私たち連絡会の他に、嘉手納・普天間・岩国・小松・厚木の基地訴訟原告団などから41名と、社民党や共産党の国会議員関係者が参加しました。



2016年2月12日：オスプレイ反対署名18,000筆を提出

私たちの要請に対し、政府側は、「オスプレイの配備は、わが国の安全保障にとって意味がある。その安全性は確認している。」「CV-22 横田配備に関する環境レビュー(2015.10月)は、米軍が米国大統領令に基づいて作成したものであり、日本政府は一切関知していない。内容について責任は持たない。」「CV-22 オスプレイ (空軍仕様) は、MV-22 オスプレイ (海兵隊仕様) と機体構造などが同一であり、その安全性も同一である。」といった回答でした。結局、政府側は要請に正対した回答はせず、基地周辺住民の安全を守ろうとする姿勢は見えませんでした。また、「沖縄のオスプレイの飛行では、日米合意が全く守られていない」との沖縄・普天間訴訟団からの指摘は、無視しました。

オスプレイ墜落死で遺族が製造元を提訴～2016年3月29日 (ハワイ)

2015年5月にハワイで起きた米海兵隊 MV-22 オスプレイの墜落事故 (右写真) で死亡した海兵隊員の両親が、ボーイング社などを相手に「オスプレイの砂ぼこりなどの環境条件に対する脆弱 (ぜいじゃく) 性を知りながら対策を怠った」と、ホノルル連邦地方裁判所に提訴しました。事故は、訓練中の着陸失敗で、乗員2人が死亡、20人が負傷したものです。



米軍は2015年11月に公表した調査報告書の中で、「左エンジンが砂などを吸い込んで出力を喪失し、操縦士の判断ミスが事故を招いた。機体に欠陥はない。」と結論付けていました。

操縦ミスの汚名を遺族が晴らす～2000年19名死亡のアリゾナの墜落事故

2000年4月8日にアメリカ・アリゾナ州で起きた海兵隊 MV-22B オスプレイの墜落事故に関して、操縦ミスが主な原因とされていましたが、遺族らの調査によりマニュアルの不備が主な原因であることが明らかになり、ロバート O. ワーク国防副長官が遺族に謝罪しました。

CV-22 は低空飛行やパラシュート降下訓練も～特殊部隊は暗殺・拉致も行う謀略的作戦に従事

横田基地に配備される CV-22 の部隊の任務は、敵地深くに入って偵察、破壊活動、暗殺、拉致、人質救出などを行う特殊部隊の輸送が主です。そのため、CV-22 は、訓練時に危険な低空飛行や夜間訓練、パラシュート降下訓練などを、横田基地周辺で行います。

2011年5月、特殊部隊は、パキスタンに隠れていたオサマ・ビン・ラディンらを殺し、負傷した妻を拉致しました。この作戦を行った米軍は、パキスタン政府に無断で決行したものでした。

